

3月休館日

3日(日)	10日(日)	17日(日)	18日(月)	20日(水・祝日)
24日(日)	25日(月)	30日(土・臨休)	31日(日)	

2月の学びの様子、紹介します ~参加者の声~

2月9日 第5回校務主任研修

本質的な対話というものを体験することができた。自分の悩みには、自分の「～すべき」という自分の当たり前(前提)が影響していること、その奥には自分の「願い」が隠されていることを知ることができた。児童や保護者に対してはもちろん、自分自身についても同様の視点で「本当にしたいこと」「本当に理想としていること」を探り、互いに尊重し合って目標を設定することが大切である。



2月15日 第17回初任者研修

今年度1年間の初任者研修では、さまざまな研修において「人のため」の研究と「自分のため」の修養を行うことができた。そのどれもが、指導員・拠点校指導教員の先生方、研修に快く送り出してくれる学年・学校の組織や先生方のおかげであるということ。来年度以降も常に心にとめて、今度はお世話になった先生方に恩返しのできるような、子どもたちに信頼される教員になっていきたい。

本年度最後の初任者研修でした



自主研修

<シニアリーダーシップ研修>2月2日

先生方の実践発表はどれもすばらしく、とても参考になった。本講座で学んだ「メンティを育てる」ことをこれからも継続していきたい。いつも笑顔、ねぎらい、感謝をもって、自校の先生方と上手にコミュニケーションをとっていきたい。



<ミドルリーダーシップ研修>2月16日

初めての現職教育研究主任ということで、何から始めればよいのか分からないことが多くあったが、この研修に参加することで、他校の取り組みを学ぶことができた。「自分達で研修を作り上げていく」という経験をさせていただいたことは、授業にも生きてくると思う。



<教科基礎講座/

中学校音楽>2月6日

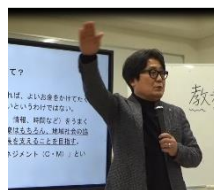
講師の先生の、発表に対する受け答えの引き出しの多様さが印象的だった。指示と外れた活動を行ってしまう生徒がいたとしても、それを工夫ととらえ、全体の指導内容に生かしていく方法は、生徒の意欲と全体の雰囲気づくりの点で、とても効果的だと感じた。



<令和6年度に向けて/講座1

カリキュラムマネジメントを意識した教育活動>2月20日

教育課程のみ、また、例年通りで行事を予定するのではなく、自校が目指す教育の実現に向けて、必要な人的・物的資源を考え教育内容を構築すること、学校教育目標をどう授業に結びつけるのかを現職教育で実現すること、などの学びを活かしたいと思った。



<令和6年度に向けて/講座2 毎日楽しく生徒指導>2月28日

子どもの権利条約の「子どもが意見を表明し参加できること」についての話では、問題行動や生徒指導で聞き取りをするときに、親や先生が聞きたいことばかりを聞いていないかという点で、内省するきっかけとなった。子どもの個性の伸長をはかるために「そのままでもいい」というメッセージを伝え続けることができるようにしたい。



2月21日 令和5年度第2回一宮市教育センター運営委員会

2月21日（水）に、教育センター第1研修室にて令和5年度第2回一宮市教育センター運営委員会を開催しました。

はじめに、令和5年度の事業報告を行い、次に令和6年度の研修計画について変更点を中心に説明しました。その後、ご参加いただいた委員の皆様から、ご質問やご意見をいただきました。

限られた時間の中でしたが、管理職・教諭・養護教諭・栄養教諭・事務職員の皆さんそれぞれの立場から、センターの事業に対するたくさんのご意見・ご要望をいただくことができました。


寄せられたお声を、次年度の教育センターの運営に生かしていきたいと思います。



3月の自主研修のお知らせ

本年度も自主研修に多数
ご参加いただき、ありがとうございました

教育センター主催の自主研修の新たな形として、3回シリーズでお届けしている「ハイブリッド研修」（対面研修とオンライン研修の同時開催型研修）の第3回「子どもがいきいきと活動できる授業開き」を以下の通り開催します。第1回、第2回共に参加者からは大変ご好評をいただいています。開催間近ではありますが、「やっぱり参加したい!」という先生は、センターまでご相談ください。令和6年度のスタートに向けて、今この時期に1年の「まとめ」とともに「準備」も始めませんか？

開催日時	講座名	主な内容
3月5日(火) 第1研修室 集合またはオンライン 【ハイブリッド研修】	※令和6年度に向けて On your mark! 講座 【講座3】 子どもたちがいきいきと活動 できる授業開き 	国語授業クリエイター 元立命館小学校教諭の岩下 修先生を講師にお迎えし、授業をよりよく展開していくための土台としての学級づくり、新年度の授業開きにスポットを当ててご講義をいただきます。若い先生方はもちろん、若い先生方を指導される先生、授業の基礎を確認したいと思っている先生方にとって特にお勧めの講座です。

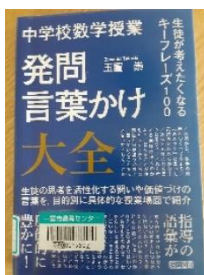
センター職員おすすめの1冊 第2弾

教育センターの図書室に新しい本が入りました。教科指導について学べる本や、児童心理について学べる本などが多く入ってきています。ぜひ、教育センター図書室で手にとってみてください。

貸し出しにつきましては、センター職員にお声がけいただければすぐに手続きできます。返却の際は、センターへ直接ご持参いただくか、メール便を利用した返却も可能です。

「中学校数学授業 発問言葉かけ大全 生徒が考えなくなるキープレース100」/玉置 崇 著

「次はどんなことを言うと思う?」（問題把握）、「どこに動かしても言えるかな?」（条件変え）、「これですべてかな?」（きまり）、「表情発言でも大丈夫!」（全員参加）等々、生徒に学びたいという気持ちを湧き立たせたり、数学のよさを感じさせたりするためにはとても有効で、日頃の授業ですぐに使える実践的なフレーズ集です。場面に応じて発問や言葉かけができれば、生徒の話し合いがさらに活性化して、生徒の数学的な見方・考え方を引き出すことができるかもしれません。生徒が課題にのめり込み、熱気あふれる数学の授業づくりを目指しませんか?



「自閉症の僕が跳びはねる理由」/東田 直樹 著

人との会話が困難で、気持ちを伝えることができない自閉症者の心の声を、著者の東田直樹さんが13歳の時に記した本。「大きな声はなぜ出るのですか?」「どうして目を見て話さないのですか?」など、50以上の質問に答えています。人間は「自分とは違う」ことや「自分に理解できないこと」を「普通とは違う」と判断しがちです。そして、普通とは違うものを「ないもの」「見えないこと」として意識の外側へ押しやりがちです。けれども著者はこの本の中で、感情を表出させることができなくても、確かにそれが存在すること、そして人とのつながりを拒絶しているように見える彼らにもつながりを求める心があることを教えてくれています。見えない心に思いを寄せる想像力を大切にしたいと思わせてくれる素敵なお本です。

